

市政記者クラブ 様

令和7年3月13日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）黒坂、近藤 電話：972-2631
（結核）増田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和7年2月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 2月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年2月	令和6年2月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	17件	31件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	2件	3件
◆四類感染症 ・E型肝炎 ・レジオネラ症	1件 2件	1件 4件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・梅毒 ・百日咳 ・麻しん ・薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件 3件 1件 4件 11件 1件 45件 9件 1件 1件	4件 4件 0件 1件 6件 1件 32件 0件 0件 0件
◆五類感染症（定点把握疾病：第6週～第9週（2月3日～3月2日分）） ・報告数の多い疾病は、①新型コロナウイルス感染症（1,759件：前月比0.70倍）、 ②感染性胃腸炎（1,184件：前月比1.43倍）、③インフルエンザ（502件：前月比0.07倍）の順となっています。		

2 トピックス

《麻しん（はしか）～予防には予防接種が効果的！早めに接種して感染を防ぎましょう～》

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、ヒトからヒトへ空気感染、飛沫感染及び接触感染のいずれの感染経路でも感染します。感染力が非常に強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～18人の人が感染すると言われています（インフルエンザでは1～2人）。

麻しんに感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日間の熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度発症してしまうと治療薬はなく、対症療法のみとなります。

我が国は、平成27年3月27日に、世界保健機関（WHO）から麻しん排除状態にあると認定されました。麻しん風しん混合（MR）ワクチンの定期接種も実施されており、麻しんに感染する方の人数は減っていますが、海外からの輸入例を発端として、麻しん患者の報告が散発している状況です。

麻しんの予防には予防接種が効果的なため、定期予防接種対象者の方は、早めに接種して感染を防ぎましょう。また、現在、麻しんは東南アジアやアフリカなどで流行しています。流行地へ渡航を計画している方は、り患歴や予防接種歴を確認していただき、不明な場合には、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。

（1）麻しん・風しん（MR第1期・第2期）定期予防接種について

区 分	対 象 年 齢
第1期	1歳以上2歳未満（2歳の誕生日の前日まで）
第2期	小学校就学前年度（令和7年4月に小学校入学予定の方） ※令和6年度は平成30年4月2日から平成31年4月1日生まれの方

（参考）過去5年間の麻しん報告数

年 次	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年 (速報値)	令和7年 (速報値※)
本 市	0	0	0	2	1
愛知県 (本市含む)	2	0	2	2	1
全 国	6	6	28	45	9

※令和7年は第9週（2月24日～3月2日）時点

3 病原体分離情報（令和7年2月検査分）

1. 令和7年1月20日発症、令和7年1月22日に市内医療機関を受診し、インフルエンザ様疾患と診断された、瑞穂区在住、2歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、インフルエンザの原因であるインフルエンザウイルス A 型 H1pdm09 亜型（AH1pdm09）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体からサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和7年1月23日発症、令和7年1月24日に市内医療機関を受診し、新型コロナウイルス感染症と診断された、天白区在住、46歳、女性の検体（鼻腔拭い液）から、上気道炎、下気道炎を起こし重症化することもある新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体からエプスタイン・バールウイルス（EBV）及びヒトヘルペスウイルス7型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和7年1月23日発症、令和7年1月30日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症と診断された、瑞穂区在住、0歳4か月、女児の検体（咽頭拭い液）から、乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるといわれているRSウイルス A 型（RSV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和7年2月8日発症、令和7年2月9日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、27歳、男性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎の原因病原体として知られているアデノウイルス 54 型（AdV-54）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和7年1月30日発症、市内医療機関で急性肺炎と診断された、千種区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるといわれているRSウイルス A 型（RSV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から乳幼児に発熱を伴う突発性発疹を引き起こし、熱性痙攣や脳炎・脳症などの重篤な合併症を引き起こす可能性があるヒトヘルペスウイルス 6B 型（HHV-6B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和7年2月9日発症、市内医療機関で急性肺炎と診断された、守山区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるといわれているRSウイルス B 型（RSV-B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
7. 令和7年2月12日発症、市内医療機関で感染性胃腸炎と診断された、南区在住、0歳10か月、男児の検体（便）から、激しい嘔吐・下痢を伴う冬季の食中毒の原因病原体であるノロウイルス GII 型（NV-GII）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

8. 令和7年2月17日発症、市内医療機関で肺炎と診断された、東区在住、6歳、女児の検体（咽頭拭い液）から、乳幼児に発熱を伴う突発性発疹を引き起こすことが知られているヒトヘルペスウイルス7型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第6週～第9週（2月3日～3月2日）

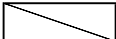
	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフルエンザ （インフルエンザ及び ンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス 感染症※	R Sウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌 を原因として同定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに 限る）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス 感染症※による入院患者	
千種	40	91	8	1	18	129	0	1	9	3	0	0	0	1								301
東	38	88	3	1	15	14	0	0	0	0	0	0										159
北	17	103	7	5	9	82	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	245
西	26	107	44	15	41	152	1	0	4	3	0	0	0	1								394
中村	27	182	25	0	5	98	0	0	0	0	0	0	0	0								337
中	24	58	43	3	17	64	3	0	0	8	0	0										220
昭和	18	166	0	0	3	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	7	50	321
瑞穂	12	53	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2								69
熱田	23	59	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	3								89
中川	53	194	9	11	17	88	0	0	3	4	0	2			1	0	9	0	2	4	29	426
港	18	101	1	2	12	55	1	0	0	1	0	0										191
南	46	218	32	4	9	60	0	0	0	0	0	0	0	0								369
守山	29	99	9	6	16	115	2	0	4	3	0	1										284
緑	48	122	3	1	19	124	2	0	4	6	0	0	0	0								329
名東	64	61	23	35	35	81	1	0	5	2	0	0	0	1								308
天白	19	57	0	1	13	50	0	0	2	1	0	0	0	0								143
合計	502	1,759	207	85	234	1,184	10	1	36	33	0	3	0	8	1	0	10	0	6	11	95	4,185
前月	7,045	2,512	100	88	229	830	26	10	51	20	2	4	0	12	0	0	26	0	1	124	110	11,190
前月比	0.07	0.70	2.07	0.97	1.02	1.43	0.38	0.10	0.71	1.65	0.00	0.75	-	0.67	-	-	0.38	-	6.00	0.09	0.86	0.37
昨年同月	6,133	4,348	17	140	675	1,178	17	10	4	28	2	4	0	11	1	1	3	0	0	31	166	12,769

※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 2月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感器 染症ク ラミジ ア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染ス 症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドリン ウ球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球シ 菌リ 感 染耐 症性	緑薬 膿剤 菌耐 感 染性 症	
千種	5	2	0	1				8
東								
北	27	10	3	6	5	0	0	51
西	0	3	0	0				3
中村	4	0	2	1				7
中	55	23	21	16				115
昭和	4	0	2	2	1	0	0	9
瑞穂	2	0	1	0				3
熱田								
中川	6	6	7	3	6	1	0	29
港	1	1	0	1				3
南	1	0	0	0				1
守山								
緑	11	0	0	2				13
名東	0	0	0	0				0
天白	0	0	0	0				0
合計	116	45	36	32	12	1	0	242
前月	98	76	49	68	8	3	0	302
前月比	1.18	0.59	0.73	0.47	1.50	0.33	-	0.80
昨年同月	108	57	41	44	6	1	0	257

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

2月分患者報告数	
週報分	4,185
月報分	242
合 計	4,427

令和7年 2 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 2 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	2 (1)	5 (2)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	1	2 (1)
	合 計	2 (1)	5 (2)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 2 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
O157	1	2	31 (6)	48 (6)
O26	-	-	5 (3)	4
O103	-	-	5 (1)	-
O111	-	1	2	-
O165	-	-	1	-
その他	-	-	2 (1)	1 (1)
型 不 明	1 (1)	2 (2)	6 (4)	9 (6)
合 計	2 (1)	5 (2)	52 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

2月

保健セン ター名	令和7年2月（※）			令和7年計（※）			令和6年計（※）			令和5年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	0	2	0	0	19	7	2	21	10	5
東	1	1	0	3	1	0	10	6	2	4	1	6
北	2	2	0	2	2	0	21	9	6	18	8	14
西	2	0	0	3	0	0	8	3	10	12	5	11
中村	1	0	3	2	0	3	22	3	7	21	4	10
中	0	0	0	0	0	1	16	7	6	21	9	12
昭和	1	0	0	3	0	0	19	5	2	13	2	6
瑞穂	0	0	0	1	1	0	8	2	2	8	2	3
熱田	0	0	0	0	0	1	10	2	3	3	1	4
中川	0	0	0	5	2	1	26	13	20	31	8	20
港	1	0	0	2	0	1	20	5	7	23	5	10
南	2	2	0	3	2	0	16	5	9	18	7	12
守山	1	0	0	2	0	0	26	11	5	21	12	11
緑	2	0	0	4	0	0	20	6	9	19	5	18
名東	0	0	0	0	0	0	10	4	4	10	4	7
天白	0	0	0	0	0	0	13	4	5	19	8	5
全市	14	5	3	32	8	7	264	92	99	262	91	154

※令和6・7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年2月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	1		1	4	5
A型肝炎	-		-	1	1
エムボックス	-		-	1	3
ジカウイルス感染症	-		-	3	-
チクングニア熱	-		-	1	-
つつが虫病	-		-	1	1
デング熱	-		-	4	6
日本紅斑熱	-		-	3	1
マラリア	-		-	1	1
レジオネラ症	2		5	48	32
レプトスピラ症	-		-	-	1
合 計	3		6	67	51

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和7年2月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	-		2	20	13
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-	- - -	- - -	- - その他： 1	B型： 2 - その他： 3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		5	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	1	-
急性脳炎※	-		-	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	-	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		6	46	22
後天性免疫不全症候群	1	AIDS： 1 -	無症候性キャリア： 1 AIDS： 1 その他： 2	無症候性キャリア： 39 AIDS： 17 その他： 1	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 -
ジアルジア症	-		-	1	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4		9	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		2	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症	11		26	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	1		5	9	8
梅毒	45	早期顕症梅毒： 24 - - 無症候梅毒： 21	早期顕症梅毒： 48 - - 無症候梅毒： 30	早期顕症梅毒： 315 晩期顕症梅毒： 9 - 無症候梅毒： 143	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126
播種性クリプトコックス症	-		-	1	1
破傷風	-		-	-	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	9		11	35	16
麻しん	1		1	2	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1		1	-	-
合 計	77		150	819	751

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 2 月 28 日時点）